

美という名のエネルギー

vol.11

栗原直弘

(古美術商)

最終章 ①

「美」を所有する意味

前回のVOL. 10でお話ししたように、私は「美」を所有する本来の意味を、「美」という人類の英知を未来に繋ぐことだと考えています。「美」は、その価値を認め、大切に伝えさえすれば、私達人間より長生きする「エネルギー体」であるという認識なのです。このような認識は、盆栽や刀剣の世界ではまだ色濃く残っており、縁あって手に入れた盆栽を痛めないのは当然のこととし

て、次の世代により美しい枝ぶり得手渡そうという思いであり、名刀を錆びさせず研がずに未来に伝えようとする意識なのです。しかし、戦後の古美術や美術品の世界では、このような意識はかなり薄れてきています。

お陰さまで表参道開業六十年、まだ弊社のお客様の中には、「俺が生きているうちは預かっておいてやろう。」とおっしゃる方がおられ、その意識こそが前回お話ししたノーブル・オブリゲーションであり、その役目を担われた方の今生での存在価値であると同時に、存在理由でもあるのです。

そして、ヨーロッパの貴族や戦前の皇室、財界人や文化人などが美術品や古美術を所有して愛でたもう一つの理由は、そのような「エネルギー体」を所有する事自体に意味があり、そこには所有者だけが知る秘密があるのです。

ツールとしての「美」

私は約二十年前まで、いわゆるコレクターといわれる人々は、美術品や古美術を未来に繋ぐと同時に、「エネルギー」の塊である美術品や古美術から「エネルギー」を貰っているのだと考えていました。しかし、「美」を波長として捉えたことで、それが大きな間違いであることに気付きました。

すべての作品に封じ込められた「エネルギー」は、劣化することはあっても他に移動することなく、一部の人が古美術や美術

を蒐集してきた秘密は、作品に内包された「エネルギー」の「波長」に接することで、自らの内に存在する「エネルギー体」の「波長」を引き上げるツールとして、いることに気が付いたのです。

そして、所有者の方々が名品と呼ばれる質の高い「波長」に日々接することで、自らの「生体エネルギー」を活性化し、自らの「波長」を上げること、その方たちの本業や生活が活性化し、向上していると感じたのです。これは、「質の良い服を着なさい。」「良い時計を身に着けなさい。」などと言われるのと同じことだと考えています。

さらに、このことを理解している、していかないに関わらず、また、品物を飾る、飾らないも問わず、私利私欲や転売などを目的としない蒐集、未来に向けた社会貢献とも言える蒐集が、彼らのステージを上げて

いるようなのです。故に、私達のように金銭のからむ美術商には適用されないのでしょうか（笑）。

すべてはエネルギー

美術品や古美術が、所有者の「エネルギー」や「波長」を上げるツールとは云うものの、もちろん、そのための大前提として、蒐集する古美術や美術品に込められた「エネルギー」の「質」や「波長」がどのようなものであるかが問題となります。

解りやすく言えば、金銭を目的に創られた量産品や贋物、品物の「エネルギー」に関係なく、評論やマスコミなどの捏造によって嵩上げされた美術品や古美術などを所有し、飾ることで、むしろ自分自身のエネルギーが劣化したり、波長を下げる場合もあるのです。

また、類は友を呼ぶというように、そのような「エネルギー」や「波長」は同じ種類の品物や業者を呼び集め、贋物や参考品のコレクターになる場合があります。とは言うものの、一点宛ずつのエネルギーが低くとも、純粋に未来へ繋ぐ意識で数多く蒐集された物は、そのエネルギー総量で価値を持つ場合もあるのです。

そして、いずれの場合でも、蒐集家自らの意識やエネルギーで持ち切れない物はいずれその人から離れてゆきます。これはある意味では宇宙の運行による摂理でもあるようです。

次回は、私がこの連載をお受けした理由と目的を話しして、最終回としたいと考えております。

備前獅子（著者蔵）

（次号へ）